

新嵐山スカイパークのランドデザイン（全体構想）について

1 グランドデザイン(案)

→株式会社モンベル(関連会社)にランドデザイン(全体的な構想)の策定を委託し、6ページの「新嵐山スカイパークのランドデザイン(案)」のとおりまとめたものです。なお、工事等を要する施設整備については、今年度中に事業費の目安を示す考えです。

2 基本理念

「みんなが集い・遊び・憩う」新嵐山スカイパーク ～30年後も笑顔が集まる風景～

→緑豊かな自然環境のなかで、子どもからお年寄りまで、さまざまな世代の方が集い、遊び、憩う場所として新嵐山スカイパークの再生に取り組むとともに、30年後もたくさんの笑顔が集まる新嵐山スカイパークを目指すものです。(「30年後」とは、子どもが子育て世代になり、子育て世代がその上の世代になるなど、世代が変わっても、笑顔が集まる場所になることをイメージしています。)

3 新たな新嵐山スカイパークの考え方

基本理念を実現させるため、町として利活用を進める公園機能、民間活用により利活用を進める観光機能、拠点となる機能について、次のとおり整理しました。また、①公園機能及び③拠点機能は、町民の皆さんの利用促進の観点からも、町民割等を検討します。

①公園機能・・・スキー場、パークゴルフ場、キャンプ場、屋外遊具、ドッグラン、展望台は、町民(近隣市町村含む)の皆さんのレクリエーションの場、スポーツの場、健康増進の場であり、集い、遊び、憩う場としてこれらの機能の充実を図るため、このエリアを都市公園に編入し、国の制度と連携して進めます。

②観光機能・・・第3駐車場、旧オートキャンプ場は民間活用ゾーンとして都市公園に編入せず、広く民間事業者の利活用(民間投資)を図ります。

③拠点機能・・・新たな拠点機能として、屋内遊戯施設、飲食、売店を都市公園エリア内に整備します。

屋内遊戯施設は子育て世代が集い、遊び、憩う場であるとともに、町外からも多くの子育て世代が訪れ、子育て環境の充実により、交流人口の増や将来の移住・定住にもつなげることが期待できるものです。

また、飲食や売店は、公園機能や屋内遊戯施設の利用者など世代を問わず多くの方に利用されるほか、地域に住む方の憩いの場、交流の場にもなるものです。

さらに、公園機能と連携することで、双方の利用に好影響をもたらすものであり、通年でさまざまな世代の集い、遊び、憩う場、交流の場として多くの方に新嵐山スカイパークが利用されることが期待できるものです。

4 「新嵐山スカイパークのあり方の骨格」策定後の検討結果について

町では、「新嵐山スカイパークのあり方の骨格」策定後、あり方の骨格で整理した機能別の考え方を検討し、次のとおり整理したうえで、グランドデザインにおいて、メモロスキー場及び公園機能、観光機能、拠点機能に位置付けました。

機能	考え方	現在の施設等	検討結果
宿泊	施設の老朽化や旅行スタイルの変化（団体から個人へ）への対応が必要であり、町民ニーズも含め、キャンプ機能との役割を整理し、現在の施設の利用の可否も含め検討する	新嵐山荘	施設の老朽化により建物解体 宿泊機能は民間活用ゾーンで整備の可能性
キャンプ	夏季に多くの誘客が可能であり、宿泊機能との役割を整理する	キャンプ場	公園機能 （キャンプ場一部改修、コテージ整備、オートキャンプ場機能移転）
温浴施設	これまでの温浴施設機能に加え、温泉やサウナの設置要望もあり、それらの利用者の取り込みなど、設置の可能性を検討する	新嵐山荘	温浴施設は民間活用ゾーンで整備の可能性
飲食	町内の農産物を使ったメニューによる町のPRや手頃な価格で食べられるメニュー、ペットを連れて飲食できるカフェの設置などの要望、コロナ禍以降の大人数の宴会の減少など、それらのニーズの変化もふまえ、整備を検討する	新嵐山荘 レストラン 宴会場 バーベキュー	拠点機能 （DBO方式により、民間活力活用） 地域行事はロッジ機能で対応
売店	町の特産品や農産物等を取り扱い、町内外からの利用者に町をPRする場（物産振興の場）としての整備を検討する	新嵐山荘 売店	拠点機能 （DBO方式により、民間活力活用）

スキー場	子どもたちの教育の場、冬のスポーツの場であることを前提に可能な限り経費を圧縮し継続する アウトドアアクティビティの場として通年での活用を検討する	メムロスキー場 スキースクール	公園機能 (ロッジ再整備及びリフト更新は国の制度と連携して整備)
フィールドを活用したサービス	これまで提供されていたサービスを含め、フィールドを活用したサービスを検討する サイクルツーリズムやマウンテンバイクなどスキー場の通年利用を含めた夏のフィールドを活用したアクティビティを検討する 歩くスキーなど各種団体と連携した新嵐山全体の活用を検討する	フィールド全体 ドッグラン パークゴルフ 歩くスキー	公園機能 (ドッグラン、パークゴルフ、屋外遊具、歩くスキー) 通年活用は民間活力活用を想定
展望台	今後の日高山脈襟裳国定公園の国立公園化も見据え、町の観光施策として活用を進める 展望台での飲食機能(カフェ等)については、水道設備等の整備が必要であり、エリア全体を検討するなかで、設置の可能性について検討する 展望台及び周辺設備の老朽化が進んでおり、町の観光施策として活用を進めるなかで、施設の再整備を検討する	新嵐山展望台	公園機能 (再整備を実施する際は国の制度と連携して整備) 飲食は拠点機能で整備
集客機能	町内外から通年での集客が可能なショップや、日高山脈襟裳国定公園の国立公園化の際の玄関口となるビジターセンターの設置を検討する	—	拠点機能 (屋内遊戯施設、売店、飲食) ※ショップ及びビジターセンターについては、「まちなか」に整備を想定
町民向けサービス	町民の憩いの場、レクリエーションの場として、町民を対象としたサービスの充実に向け検討する	—	公園機能、拠点機能 (町民割等のサービスの充実を検討)

5 今後のスケジュール(予定)

令和6年度はめむろ未来ミーティング、まちづくり意見募集(令和6年12月23日～令和7年1月23日)で町民の皆さんからご意見等をいただき、ランドデザインを決定します。

令和7年度はランドデザインに基づき、次の表のとおり、基本計画の策定等に進む考えです。

1 既存施設

	施設名	内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
1	新嵐山荘	解体	実施設計	工事着工・完了			
2	旧管理棟 フォレストハウス	解体	実施設計	工事着工・完了			

2 公園機能

	施設名	内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
1	屋外遊具・ドッグラン	整備(新規)	長寿命化計画	基本設計・実施設計	工事着工・完了	オープン	
2	キャンプ場	再整備	長寿命化計画	基本設計・実施設計	工事着工・完了	オープン	
3	パークゴルフ場	再整備	長寿命化計画	基本設計・実施設計	工事着工・完了	オープン	
4	スキー場ロッジ	再整備	長寿命化計画	基本設計・実施設計	工事着工・完了	オープン	
5	スキー場リフト	更新または修繕	長寿命化計画	※更新の場合 基本設計	実施設計・工事着工	工事完了	オープン
6	展望台	改修	長寿命化計画	※改修時期未定			

3 観光機能

	施設名	内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
1	第3駐車場及び 旧オートキャンプ場	民間活用		公募			→

4 拠点機能

	施設名	内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
1	屋内遊戯施設 飲食・売店	整備(新規)	基本計画	公募 実施設計	工事着工・完了	オープン	

6 ショップ及びビジターセンターについて

新嵐山スカイパークのグランドデザインの策定にあたっては、株式会社モンベル(関連会社)から、グランドデザインとあわせて町の観光資源や町外からの誘客、また、町民の皆さんから要望の多いショップの誘致(出店)や日高山脈襟裳十勝国立公園を契機とした観光の玄関口(ビジターセンター)について、次のとおり提案を受けました。

①ショップ及びビジターセンターは、町内外から多くの人を呼び込むことが可能な施設であるとともに、特にショップは町民の皆さん、十勝地域の皆さんからも要望の多い施設です。

ショップにおける町内外からの誘客及びショップから町内のお店への人の流れによる地域消費の拡大、ビジターセンターは芽室町を含む十勝の観光の窓口にもなり得る施設であり、その効果を最大限発揮するためには玄関口となる場所(立地)に設置することが重要です。

芽室町の立地(高速道路(IC)や国道、JR(鉄道)といった交通の便)、町民の皆さんの利便性、町内事業者への効果の波及の点からも、ショップ及びビジターセンターは「まちなか」に設置することが望ましいと考えます。

②新嵐山スカイパークは、公園機能や拠点機能を整備し、町民(近隣市町村含む)の皆さんの集い、遊び、憩う場にするとともに、民間活用エリアは民間活力を活用した観光機能の充実につなげることが期待できる場所です。

また、モンベルの知見やブランド力を活用し、ショップ及びビジターセンターと連携することで、観光拠点としての活用にもつながるものと考えます。

町では、上記の提案について検討し、町外からの誘客(関係人口、交流人口の増)やまちなか再生、地域消費の拡大、町内事業者への波及効果など、町の課題解決につながるとともに、これまでの未来ミーティングや講演会等で町民の皆さんからいただいたショップ誘致の要望、町民の皆さんの利便性から、その効果を最大限発揮するためには、ショップ及びビジターセンターの設置場所は「まちなか」が最適であると判断し、「まちなか」の具体的な場所として、芽室公園を想定した Park-PFI(パークピーエフアイ)制度による市場性の調査を行っています。

※Park-PFIとは・・・都市公園において、飲食店や売店等の公園施設の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定する手法で、民間事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、民間事業者は都市公園法の特例措置が適用されるもので、道内では札幌市、恵庭市、厚真町が導入しています。(北海道(道立公園)は市場性の調査を実施中です。)

※市場性の調査とは・・・該当する公園に民間事業者が進出可能かどうか、可能であればどのような店舗等が設置可能かといったことを民間事業者と対話し、民間の創意工夫を発揮できる条件設定の参考にするものです。

新嵐山スカイパークのランドデザイン（案）



- ①スキー場(リフト更新検討、自転車等夏季利用)
 - ②キャンプ場エリア(コテージ整備、オートサイト 機能移転)
 - ③パークゴルフ場
 - ④駐車場(イベント利用可)
 - ⑤センターハウス(ロッジ(軽食)、スキーパトロール、スキースクール、レンタル、指定管理事務所、備品倉庫)
 - ⑥拠点施設(屋内遊戯施設、飲食、売店)
 - ⑦屋外大型遊具
 - ⑧ドッグラン
 - ⑨・⑩民間活用(公募)
- ※既存宿舎、旧管理棟、フォレストハウス、D 型ハウス解体・撤去